令和７年度　第２回三木市学校給食審議会　議事録

１　開催日時　令和７年６月２０日（金）　１９時～２０時４０分

２　開催場所　三木市立教育センター　４階中研修室

３　出 席 者

会　長	水野　　千恵
副会長	高森　　伸彦
委　員	東中　　閲哉
委　員	藤原　　真那美
委　員	冨田　　佳泰
委　員	岡嶋　　智寿后
委　員	西耒路　雅恵

（事務局）

教育委員会	教育長	大北	由美
教育総務部	部長	森田	眞規
教育施設課	課長	大塚	芳徳
教育施設課	課長補佐	谷田	麗奈
教育施設課	給食係主査	埒田	邦美

４　傍聴者の数　　なし

５　会議の概要

学校給食費の改定について

６　議事

学校給食費の改定について

７　主な発言の要旨

給食費の改定について資料を基に事務局より説明

（会長）

食材費の高騰の影響で、デザートの回数が令和元年に比べて約半分になり、また、安価な食材への変更をしています。

精白米を減量した場合、5g だけの減量がちょうど良く、さらに 5g 減らすと栄養価が不足するので、現状が良いのではということです。主食の回数を変更する場合には、米が高いので、パンを増やすという案も考えられるかとは思いますが、兵庫県の米飯の平均回数が 3.7 回であり、三木市は標準的です。アンケート結果において、保護者も児童生徒も、「今のままの回数が良い」という回答が半分以上です。さらに、ごはんの回数を増やしてほしいという人が約 3 分の 1 程度います。

給食の改定案について、消費者物価指数を参考に検討しています。これは 2020 年を 100 として、計算されている物価指数で、2024 年度の総合平均は 108.5 ですが、食料の平均は 117.8 です。他の物価に比べると食材費が増加している現状で、昨年 1 年間で約 5.6%上昇しています。案 1 案 2 は、6%増額するという案でしたが、毎年、食材費を見直すので、小数点以下を切り捨てた 5%増額するのが案 3 案 4 です。

食材費負担の推移を見ると、国からの交付金を活用して給食費の物価高騰分を補填していましたが、昨年で基金をかなり使っているので、物価上昇分は、増額の必要がある現状です。

給食は生きた教材です。子どもたちの栄養になり、また、給食時間を楽しく、安全安心な食材で季節を感じながら食べるという本来の目的が達せられるようにできればと思っています。

説明にあたって、ご意見等ありましたらお願いいたします。

（委員）

今回の資料を見て、主食を変更してはどうかという意見がありましたが、この給食費の改定の目的としては、学校給食費の質・量の水準を確保することであると書かれています。もし、ご飯の量を減らした場合、当然その分栄養が不足し、副食で補うことになります。副食を増やすことにより、残菜が増えないかという、少し不安な面があります。

子どもたちのアンケートの結果を見ても、量が多いと感じている子どももい

ますが、逆に少ないと感じている子どももいます。例えば、多いと感じている学校は少し減らし、適量だと感じて学校は現状のまま等、柔軟な対応ができないのかと思いました。

もう１点は、ご飯を残す理由として、中学校のアンケート結果を見ると、量が多いから残すという意見よりも、食べる時間が少ないから食べきれず、残してしまうという答えも多いです。特に、生徒数が多い学校は、時間がないから残す割合が高いです。限られた給食時間の中で、多くの人数の生徒が、3、4階の教室から１階の端にある配膳室まで取りに行き、配膳室に入る順番を待ち、また３階か４階まで持って上がるという、時間のロスがあります。そのため、子どもたちがもっとスムーズに給食の準備や後片付けができるような環境を整えることも大事だと思います。

（委員）

別所中学校や吉川中学校は、生徒数は少ない方で、各学年１クラスで、３クラス同時に配膳室に来ても少し待てば、すぐに持っていける状態です。１クラスの人数も多くないので、残菜が少ないです。何か環境整備をすれば、少し残菜が減るかもしれないと思っています。

（会長）

残菜量は、１人当たり小学校12ｇ、中学校16g、本当に大さじ１弱、大さじ１杯強です。食品ロスは家庭で１日１人100ｇ程度と言われています。給食を後一口食べれば、残菜が無くなることになります。

たくさん食べるところは調理場内で多めにご飯を配膳するとかは難しいですか。

（委員）

ご飯については、米飯専用の委託炊飯で、衛生面を考えると、納品されたものを調理場で調整するのは難しい状況です。

（会長）

今年度はこの5g減らした量で、提供することを考えていますか。それとも途中でアンケートをとって検討されますか。

（事務局）

とりあえず今年度はこのままの量での提供を考えています。毎年、給食アンケートを11月頃に実施しますので、その結果を次の年に活かしたいと考えています。

（会長）

ただ、ご飯を減らしてしまうと、どうしても炭水化物エネルギー比率が減り、脂肪やタンパク質の割合が高くなり、栄養バランスが取りにくくなります。これ以上、減らすのは難しいですね。

（事務局）

昨年度の主食の残菜平均が小学校は1人分1食当たり9.8gで米の量は4.5g、中学校は24.3gで米の量で11gでした。中学校の方が多く残っていますが、小学校で5g減らしても、問題がないという予測で、今年4月から、試験的に5g減らして様子を見ているところです。

（会長）

小学校は、低・中・高学年と量が違います。中学校は全学年一緒ですか。

（事務局）

中学1年生は、急に多くなると食べにくいので95g、2年生から105gです。

（委員）

部活を引退するまでは、そんなに差がないのですが、部活を引退してからは3年生が、若干残りぎみの傾向はあります。

（会長）

残菜が多い学校の給食の環境整備とか、給食時間を長く確保する等、対策ができるか検討していただき、時間割でもう少し給食の時間を増やすというのはなかなか難しいですか。

（副会長）

三木東中学校にいた時、生徒が40人のクラスもあったので、給食時間は戦いでした。校舎の端から上の階に持って上がり、40人に給食を振り分けると、食べる時間が10～15分です。

（会長）

4時間目が体育や別の教室だったら大変ですね。

（副会長）

別の教室ならば、給食白衣を準備して行き、着替えて運ぶ状態です。

（委員）

小学校は給食時間が40分あり、準備と食べる時間が確保できています。本校はエレベーターがありますので、配膳員が、2階の教室の前まで、ワゴンで運びます。白衣に着替えると、すぐ配膳がスタートできるので、ありがたい環境です。食べ終わって外へ出て遊びたい子どもも、45分まで待ちなさいと言っています。

（委員）

リフトが整ってない学校は分かりますか。

（事務局）

小学校は、豊地と志染小学校は児童が配膳室まで取りに行きます。他の小学校はワゴン方式で、調理員等が給食を載せたワゴンをリフトで各階まで運びます。中学校は、別所中学校のみがワゴン方式で、他校は生徒が運んでいます。中学校のモデル校として別所中学校でワゴン方式を始めましたが、設備や人員等の関係で他の学校はできていない状況です。

（副会長）

全員前を向いて食べさせると黙々と食べるので、早く食べます。向かい合って班で喋りながら食べるとスピードが落ちます。しかし、その方が楽しく食べています。喋りすぎて、残っていても、チャイムが鳴ると諦めています。

（委員）

おかずを残す理由のアンケート結果で一番多かった回答は、嫌いなものが出るから、その次がやはり時間がないからです。おいしくないからと答えている地域は限定的です。

（会長）

食材は一緒でも作り方が違うのでしょうか。

（委員）

小学校と中学校で、よく食べている献立に差があります。魚や煮物の和食献立は、小・中学校共通して残している量が多いです。中学校は、うどんを残しています。献立を作成する側としては、小学生はうどんが好きですし、寒い時期に入れるのですが、中学校は早い時間に仕上げて配送する学校が多いので、中学生がうどん食べる時は、汁気を吸って汁がない状態です。小学校と中学校で献立を替えることは難しいので、工夫が必要だと思いました。この残菜量を減らすことは、献立を立てる側も頑張らないといけないし、また学校の中でも、先生から、食べるように声かけをしてもらう協力も必要だし、環境面を少しでも整えてもらう等いろいろなところの協力が必要だと思います

（会長）

魚とか煮物を食べないからといって減らすと、魚を食べる習慣が、ますます減っていきます。ただ、魚もどんな魚を選ぶか、どんなメニューにするかにより変わります。例えば、シイラより鮭が好きだと思います。

（委員）

我が子も、シイラは嫌だと言っていました。

（委員）

前回の審議会後、給食費について保護者から話を聞いてみると、保護者の意見は、基本的に給食費を上げないでほしいでした。それはそうでしょうねという感じですが、資料等、頑張って説明しても、それが末端の保護者までは多分届いていません。日々苦労されている献立で、子どもたちの栄養等を考えて

も、その苦労を保護者は見ません。極端に言えば、多分、興味がない人が多いです。

今年に給食費が上がったタイミングで、来年、また上げると、いろいろな努力はしていますと言っても、保護者には伝わらず、結果としてお金だけを見て、「また上がった」というのが純粋な意見だと思います。

説明が一番重要だと思います。今、説明として、物価高騰だから仕方ないと正直思います。備蓄米をばらまいても、物価高騰しているし、人件費も高騰しているので、当然、給食費も上がります。給食費を上げるなら上げた方がよい。必要最低限ではなくて、上げるなら1回で上げて、逆に言うと次回は上げないようにしたいのが本音です。

1年経って上げて、また、もう1年経って上げて、さらに1年経って上げてとなると、もう保護者からしたら、三木市の給食はどうなっているのだろうと意味が分からない状態になります。ちょうど最近ニュースになった唐揚げ1個みたいな給食を想像している方も少なくないだろうと思います。ご飯の量は少なくして欲しくない、でも、給食費は上げないでほしいというわがままな意見には応えられないと思います。

多くの保護者から意見を聴きましたが、自分たちの子どもが給食で何を食べているのか知りません。大変な仕事で、子どもには直接的に喜んでもらえると思いますが、子どもから保護者へ伝わっていません。

今は物価高騰が続いているので、できるだけ上げたほうが良いと思います。給食費を上げるのであれば、米飯の週3.5回は守りながら、副食やデザートを充実してほしいです。この先、物価が読めないのが実情ですし、例えば、給食費を上げて、デザートが月に1回が2回になり、デザートが今週もあるという話を保護者にしてくれると、保護者は報われます。給食費が1,000円も上がったが、デザートが増えたと気づいて、保護者も給食費を改定した意図が分かると思います。

（会長）

令和6年度に上がったのは、平成27年から上がっておらず、久ぶりの改定でした。今回は2年後ですが、前回は6年度の物価高騰分のみ上げたので、昨今の急激な物価高騰分が赤字になっています。

今回の物価高騰分に加えて、副食を充実させ、デザートが美味しくなり、昔

みたいにシイラでなくて鮭が食べられるようになるといいですね。給食の献立の写真をホームページに掲載しているので、保護者も確認できます。紙で食育だよりや給食の献立表を配っていますか。

（事務局）

給食だよりは、すぐーるで配信し、献立表は、紙で配布しています。

小学校、中学校、特別支援学校の給食費を2学期のみ半額にすることが、今日、議会で承認可決されました。市としても極力、保護者に負担をかけないよう、保護者から徴収する額を下げる努力をしています。審議会では、給食費を保護者がいくら負担していただくかというよりも、食材費はどれぐらいが適正かということを決めていただく場になっています。子どもたちが健康ですくすくと育つための食材費をこの審議会で決めていただくため、事務局が提案している案について、重点的に審議お願いします。

（委員）

物価上昇率6%の案が良いです。献立を作成する栄養士がお金のことだけを考えて節約するのは、かわいそうなので、もっとワクワクしながら考えてほしいです。

（委員）

私は案2が良いと思っていましたが、農水大臣が米の流通を変えて、安定しているので、もう少し下がってくることを期待して、5%の案4でもよいと思いました。

（副会長）

物価上昇率が5.6%上昇で5%にすると残り0.6%は、何か削るのではと思ったので、削るのであれば、楽しみの部分を削るという発想になりますよね。やはり6%の方が余裕を持って給食を作ることができると単純に思いました。何か楽しみがあれば、子どものモチベーションが上がると思いました。

（委員）

物価上昇率6%と5%の1%の差ですが、4円しか変わらないです。4円の差でど

う変わるのでしょうか。

（委員）

月額では、案２と案４の差が小学校で70円になります。70円あれば、例えば、デザートを月に１品増やすことができます。

（委員）

保護者を納得させるには、給食が楽しくなった、デザートが増えた等、子どもが家庭で話してくれると保護者に伝わると思います。また、給食費を上げたら上げっぱなしではなく、例えば、給食試食会で、保護者に栄養士が普段どういうことを考えている等のアピールが必要です。給食費を上げますという通知だけでは保護者に伝わらないので、例えば「ゼリーが月２回に増えたらしい。」とかどんどん噂がたって、「給食費が高くなっても子どもが喜んでいるから良いか」みたいな感じになると思います。

（事務局）

試食会は、コロナ禍で、実施していない学校はありました。現在、実施しているのは小学校１年生のみで、中学校はしていません。
また、学校のPTAの給食委員で試食会を開催しているところもあります。

（会長）

2024年５月の消費者物価指数の食料が124.4で上昇率として5.6%なので来年度の給食費の上昇率を6%か5%のどちらにするのか、また副食やデザートを充実させる分を上乗せするのかどうか、どうしましょう。

（事務局）

多数決はどうでしょうか。

（会長）

手を挙げる形でよろしいですか。

～案２に全員挙手～

（会長）

改定額だけをみると保護者は、驚くかもしれませんが、食べてみると格段に変わってくると思います。副食・デザート類を充実させるということは、令和元年の献立内容に戻すだけでなく、もっと「わくわく」する給食にできます。三木市学校給食の基本方針が達成できるように、食育を推進したり、地産地消を推進したり、郷土愛を育む献立や楽しい給食の時間になるような献立にするということです。

子どもが保護者と話しする確率が高くなると思うので、給食を楽しみに学校に行く子ども、不登校の子どもも増えているということですが、楽しみの一つになる子どももいるかもしれません。「わくわく」した給食を提供できるのであれば、この23%の改定率は一見大きいように見えますが、結論としては、返ってくるものも大きいのかなと思います。

答申書に付随する文書を考えさせていただいて、案2で、答申したいと思います。今日は長時間にあたり、いろいろご審議ご意見いただき、ありがとうございました。

（事務局）

今後の予定として、第3回目の審議会において、学校給食費の改定について、答申をいただきます。なお、この答申案ですが、会長と事務局とで内容を詰めまして、各委員様に事前に送らせていただきますので、確認をお願いします。ご意見や変更等があれば事務局に連絡願います。

次回は、7月11日金曜日午後7時から、場所は、同じくこの場所です。ご出席のほどよろしくお願いします。事務局からは以上となります。

（会長）

ありがとうございました。以上で本日の議事は終了しました。本当に長時間にわたりご審議いただき、ありがとうございました。

それでは閉会にあたりまして、副会長からご挨拶をお願いいたします。

（副会長）

今日、米が美味しいと学校で話題になりました。地産地消は、地域の活性化

や継承という部分も担っており、すごく大事だと思います。給食が大きな意義を持っていることをすごく感じました。第３回に向けて良い審議になったと思います。ありがとうございました。